

東福岡高等学校・東福岡自彊館(じきょうかん)中学校



外観

「学校法人 東福岡学園」は、2025(令和7)年に設立80周年を迎えることを契機として、教育方針のひとつ“多様性の受容”を掲げ、男子一貫校であった東福岡高等学校・東福岡自彊館中学校の男女共学化を決定した。



ビクトリーロード

高校スポーツ界では有名な通称「ビクトリーロード」。20mほどの廊下に、各部活動歴代の栄光が展示されている。スポーツだけでなく、難関大学の過去合格実績者名なども掲示、名実ともに文武両道の進学校である。



女子更衣室



新設した女子更衣室のすべてに、洗面コーナーを設置。化粧鏡下には、ポーチやコンタクトレンズなどの小物を濡らさずに置くことができる連立化粧棚を採用。腰掛けながら着替えられるベンチも設置されている。



女子更衣室

各更衣室内には、性的マイノリティや他人の視線を気にする生徒に配慮し、それぞれ2ヶ所の個室を用意。着替え時の手荷物配慮として、各個室にベンチを完備している。



中高一貫校舎3F
女子トイレ 洗面コーナー

十分な広さを確保した機能的な空間の中学校女子トイレ。鏡を設置せず開放的な洗面コーナーは、身繕いできるスタイリングコーナーを別に設けることで、混雑緩和を図っている。



中高一貫校舎3F
女子トイレ
スタイリングコーナー



複数人で同時に利用できるスタイリングコーナーには、大きめの化粧鏡を設置。さらに、同空間には、全身チェックができる姿見や大きなバッグなどが置けるベンチを設けている。



中高一貫校舎3F
女子トイレ
大便器ブース

奥行きがコンパクトで、連続洗浄可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を設置。スカート着用の子生徒の操作性に配慮し、便座に操作ボタンがないウォシュレットPSをすべての大便器に採用している。



中高一貫校舎3F
女子トイレ
セルフケアブース

女性特有の健康課題に配慮したセルフケアブースを2ブース設置。手をついて体を支えられる柵付きの紙巻器やベンチ、着替え用のフィッティングボード、手洗器が完備され、体調不良時でも安心して利用できる。



中高一貫校舎7F
女子トイレ 洗面コーナー

窓からの採光により明るく開放的な7F女子トイレ。洗面コーナーには、奥行きがコンパクトなボウル一体タイプのマーブライトカウンターを採用。ベンチは荷物置きや生徒同士のコミュニケーションの場として使用される。



中高一貫校舎7F
女子トイレ
大便器ブース

大便器ブースは、大きなバッグなどを持ったまま入ることができるように広いスペースを確保。ライニングやフィッティングボード、ベンチ、柵付二連紙巻器など、手荷物への配慮が細やかに施されている。



中高一貫校舎7F
男子トイレ 洗面コーナー

中学校男子トイレは、改修前、多数の生徒が廊下に大きなバッグを置いてトイレを利用していたため、改修後は利便性向上とマナー教育を目的に、男子トイレ内にもベンチなどを設置し、手荷物が置ける配慮をしている。



中高一貫校舎7F
男子トイレ
小便器コーナー

床の清掃性に優れた、低リップタイプの壁掛小便器を設置。向かい合わせにある大便器ブースには、連続洗浄可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式と擬音装置搭載のウォシュレットPを採用している。

東福岡高等学校・東福岡自彊館(じきょうかん)中学校



トイレ入口



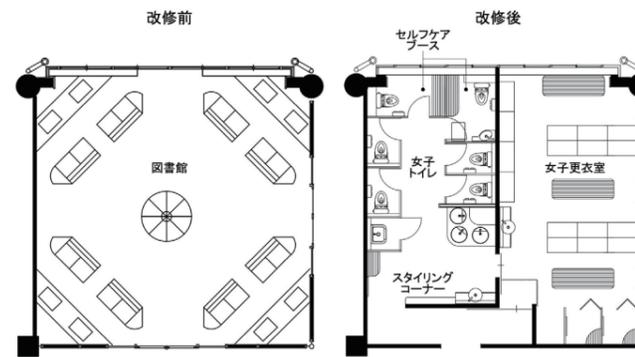
ビクトグラムは、男女を分けないデザイン性を意識し、グレーの同色で統一感のある空間づくりを重視したデザインになっている。



女子トイレ 全体



高校トイレは、数の充足感をベースに検討。休憩時間の集中利用を想定し、一列並びの機能的でシンプルな配置。スタイリングコーナーも、ベンチに座ったとき角に頭がぶつからないよう、設置位置を綿密に検討した。



中高一貫校舎3F
女子トイレ図面

改修前は図書室だった場所を改修し、女子トイレと更衣室を新設。トイレは、開放感ある窓を有効利用し、自然光が入る明るい空間。また、体調不良時などの利用を想定し、セルフケアブースも設置されている。



女子トイレ 洗面コーナー

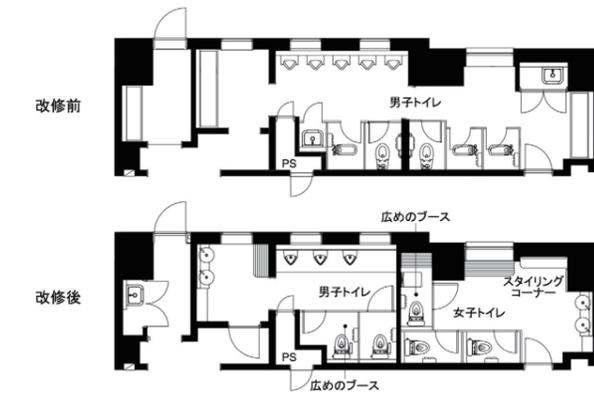
通路幅を確保するため、奥行きがコンパクトなマーブライトカウンター(ポウル一体タイプ)に、非接触で手洗いができる自動水栓を設置。カウンター上部に連立化粧棚を設置、荷物が置けるドライゾーンを確保している。



女子トイレ
大便器ブース



校内の各トイレには、機能的な広めのブースを配置。このブースは最奥に設けられ、柱型による空間を有効利用し、大きなバッグが置けるベンチや、着替え用のフィッティングボードを完備。体調不良時には休憩もできる。



中高一貫校舎7F
トイレ図面

男子トイレだったところを、男子トイレと女子トイレを併設する空間へ改修。大便器は、すべて洋式便器に変更。荷物配慮のベンチ設置や広めのブースを用意して、快適なスクールライフをサポートしている。



バリアフリートイレ



バリアフリートイレの操作ボタンは、ボタンを押すたびに発電し、乾電池や電源工事が不要なエコリモンを採用。棚に置ききれないバッグなどの荷物が配慮し、フックも上下2ヶ所用意している。



改修前



老朽化が見られた改修前のトイレは、タイル張りの内装で、一部に和式便器も設置されていた。さらに、手荷物配慮もなく、洗面コーナーには手動水栓が採用されていた。



トイレ・女子更衣室図面

資料準備室を女子更衣室に、女性職員トイレを女子生徒用トイレに改修。改修後は便器前の通路幅を確保するため、奥行きがコンパクトなマーブライトカウンター(ポウル一体タイプ)を採用している。

水まわりの特長

改修の経緯

1945(昭和20)年に設立された「学校法人 東福岡学園」では、学園創立80周年を迎える2025年度から学園ビジョン「NEXT HIGASHI 2030」をスタート。ラグビーやサッカーの強豪校として、多くのプロ選手を輩出している歴史ある中高一貫男子進学校であった東福岡高等学校・東福岡自彊館中学校の男女共学化を、教育方針のひとつに「多様性の受容」を掲げるなか、2025年度から実施することを決定した。それに伴い、女子生徒用に更衣室や校内10ヶ所以上あるトイレを整備。さらに、制服や学食なども見直し、入学したくなるような環境づくりに取り組んだ。改修と募集が同時期となったため、空間イメージをCGで先に作り、ホームページ上で発信。オープンスクールでは、1500人以上の申し込みがあった。

水まわりの特長

女子トイレの整備においては、利用者が気持ちよく快適に使用できるよう、多くの工夫が施されている。大便器コーナーでは、セルフケアブースを設け女性の体調に寄り添った空間とし、ベンチや着替え台も設置。器具は、連続洗浄に優れたパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式や、プライバシーと節水への配慮として、擬音装置「音姫」や、ノズルをきれいに保つ「きれい除菌水」機能を備えたウォシュレットPSをすべての女子トイレに採用している。中学校の洗面コーナーは、気持ちのよい広々とした空間。新設した女子更衣室は、性的マイノリティや他人の視線を気にする生徒に配慮し、2ヶ所の個室を用意するなど、新しく入学してくる女子生徒が楽しく、安心して学校生活が送れる水まわり空間が実現した。

建築概要

名称	東福岡高等学校・東福岡自彊館(じきょうかん)中学校
所在地	福岡県福岡市博多区東比恵2-24-1
施主	学校法人東福岡学園
設計	株式会社 那の津壽建築研究所
施工	建築 松尾建設株式会社 設備 進興設備工業株式会社
竣工年月	(改修)2025年3月
敷地面積	48,309㎡
建築面積	4,561㎡(本館)、93,302㎡(自彊館中学校)
延床面積	16,587㎡(本館)、456,175㎡(自彊館中学校)
構造・階数	鉄骨造・鉄筋コンクリート造・地上5階(本館)、地上7階(自彊館中学校)

おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B
- パブリックコンパクト便器・タンク式:CS597BMS+SH596BA系
- ウォシュレット アプリコットP(温風乾燥付きエコリモン):TCF5841AUP
- ウォシュレットPS:TCF5514AUY
- ウォシュレットP:TCF587Y
- 棚付二連紙巻器:YH700AD
- 壁掛小便器:UFH500
- ハイドロセラフロアPU:AB690BR
- マーブライトカウンター(ポウル一体タイプ):MC35
- 連立化粧棚:MAM3系
- 洗面器:L700C
- 壁掛洗面器:MLRB
- 台付自動水栓:TLE28SS1A、TLE31SS1J
- フィッティングボード:YKA41R
- はね上げ手すり:T112HK7R
- フック:YKH22
- フリーサイズ大型鏡:MMA1A系